

## カブトムシ

昆虫たちはイキイキ、子どもたちはワクワク



夏になると無数のセミの鳴き声が響きわたる緑地公園内にカブトムシがたくさん現れます。自然豊かな三芳町で育まれた土で育ったカブトムシの幼虫を探す子どもたちの姿も。

町内各所には平地林(雑木林)がたくさん残っています。緑地公園には、泡が立つほど樹液があふれるくぬぎの木には夜になるとギッシリとカブトムシたちが集まってきます。夏になると虫網と虫かごを持った親子の姿が緑地公園内で見られます。スズメバチもカブトムシが好む樹液が大好きなので、十分注意してください。



落ち葉堆肥農法で使用される堆肥はカブトムシの幼虫にとって絶好の寝床。地域の人は幼虫のことをその形から「まんじゅう虫」と呼んでいます。



## みよしまつり

三芳町の人口を上回る来場者が一日で集まる



三芳町の夜空を彩る花火。会場からすぐそばで打ち上げるため、音や迫力が圧巻です。



みよしまつりの魅力をギュッと詰め込んだプロモーション動画をYouTubeで見ることができます。会場の雰囲気を感じて、ぜひ会場に足を運んでみてください。



## 蛭舞う、こぶしの里

様々な「オモイデヒカル」、三芳町のホタル



幻想的な光を放ちながら、こぶしの里を舞うホタル。4月に地元の小学生が幼虫を放流し、5月下旬から6月上旬の時期に、成虫となって、再会します。

子どものころに観たホタルの光。今の子どもたちにも「地元で」見せてあげたいという想い。毎年ホタルの幼虫をこぶしの里に放流している竹間沢ほたる育成会の尽力で、三芳町でホタル観賞をすることができます。年々来場者は増え、昨年は一日で1,300人以上がこぶしの里を訪れました。ホタルの情報はFacebook いいね三芳町から。



竹間沢ほたる育成会はボランティアで活動しています。こぶしの里の案内のほか、里内の清掃なども定期的に行い、ふるさと三芳町を大切に守ってくれています。



意外と<sup>1100/いいね</sup>三芳町。

トカイナカ的な三芳町

# おすすめガイド

意外と知らない三芳町のこと。  
知らないともったいない。  
おすすめの行事などを一挙公開!



## 三芳町産業祭

商・工・農の魅力がギュッと詰まったお祭り



毎年産業祭に参加し、野菜の直売などのお手伝いを三芳町広報大使の吉澤ひとみさんが行っています。町の木を使ったクラフト作りなども行われ、こちらは子どもたちに大人気。

毎年11月の第2日曜日に三芳町役場周辺で開催される三芳町産業祭。町内の農産物・工業製品・商業品が一挙に集まります。美味しいみよし野菜の直売をはじめ、趣向を凝らした各出展ブースは毎回盛り上がりを見せます。農家の皆さん自慢の野菜が集結する野菜の品評会も行われるなど、三芳町の商・工・農がこの日一堂に会します。



みよし野菜をふんだんに使った「けんちん汁」は毎年大人気ですぐに完売するほど。新鮮なみよし野菜を安く手に入れることもでき、町外からも参加する人も多い、人気の催しです。

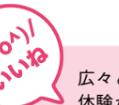


## 世界一のいも掘りまつり

いも掘りを通じて遊ぶ、食べる、体験する。



三芳町のさつまいも畑の土は柔らかく、スコップは必要ありません。手でいもを掘ることができます。その感触を楽しみながら、収穫の喜びを感じることができるイベントです。



広々とした畑の中で、さつまいもを収穫する体験が大人気。特に小さなお子さんを連れた家族の参加が多く、三芳町での思い出作りの場所にもなっています。



## いも街道

さつまいもの生産を担う農家が連なる街道

三芳町の特産品のひとつ「富の川越いも」。その生産を担う農家が軒を連ねるのが「いも街道」です。シーズンになると、のぼりが立ち並び、さつまいもやみよし野菜の直売が行われます。いも街道の詳細は広報みよし平成27年10月号や観光ガイドブックをご覧ください。



いも農家が並ぶいも街道。けやき並木が皆さんを出迎えます。シーズンになると富の川越いもの旗がなびく。



富の川越いもの生産者からなる三芳町川越いも振興会の皆さん。伝統農法などを守り続けてきたことが認められ、第54回農林水産祭むらづくり部門で天皇杯を受賞しました。



## 木ノ宮地藏堂縁日

年に4回開催される地域の縁日



賑わいを見せる縁日の様子。地元上富の住民のほか、町外からも参拝に訪れる人も。木ノ宮地藏堂は子授け・安産・子育ての地藏様として古くから信仰を集めてきました。

毎年4月23日・24日と8月23日・24日の4日間、木ノ宮地藏堂で行われる縁日。出店が並び、多くの人が参拝に訪れます。特に春の祭礼では植木市がたち、賑わいをみせます。また、境内には地元上富離子保存会による山車と離子奉納があり、祭りを一層盛り上げます。また、この4日間だけ天井の107枚の植物画が見られます。



何度かの荒廃や焼失などがあった木ノ宮地藏堂。現在の堂は1777年に再建されたもので、本堂の中には木造の地藏菩薩が安置され、天井には107枚の植物画が描かれています。

